

令和元年度第2回かわさきパラムーブメント推進フォーラム

- 1 日 時 令和元年11月28日（木）14時15分～15時30分
- 2 会 場 川崎市役所 第3庁舎18階 大会議室
- 3 出席者
 - 【委員長】 福田市長
 - 【顧問】 中森顧問
 - 【委員】 遠藤委員、大塚委員、小倉委員、菊地委員、栗山委員、杉山委員、須藤委員、瀬戸山委員、多田委員、丹野委員、土岐委員、中澤委員、湯浅委員、横島委員
 - 【事務局】 加藤副市長、向坂市民文化局長
(市民文化局オリンピック・パラリンピック推進室)
井上担当課長、笹倉担当課長、鴻巣課長補佐、太田担当係長、永田担当係長、山城職員、奥貫職員、小西職員、田中職員
市民文化局コミュニティ推進部 中村部長
市民文化局市民スポーツ室 山根室長
市民文化局市民文化振興室 山崎室長
健康福祉局障害保健福祉部 西川部長
教育委員会学校教育部 森部長
- 4 議 題
 - (1) かわさきパラムーブメントにおける今年度の主な取組について
 - (2) 英国事前キャンプにおける今年度の主な取組について
 - (3) 東京2020オリンピック・パラリンピック聖火リレーについて
 - (4) その他
- 5 傍聴者 0名

【井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

それでは、定刻になりましたので、ただいまから令和元年度第2回かわさきパラムーブメント推進フォーラムを開催いたします。

議事に入るまでの間、進行は本来ですと原オリンピック・パラリンピック推進室長が務めさせていただき予定でしたけれども、本日欠席のため、同室担当課長の私、井上が務めさせていただきます。失礼して着座にて進めさせていただきます。

まず、何点か事務連絡がございます。初めに、本日のフォーラムでございますけれども、公開となっておりますので、傍聴を許可しておりますことをあらかじめご了承くださいと存じます。会議につきましては、発言の内容を記録し、発言者の氏名も含めて、後日市のホームページに掲載いたします。

次に、配付資料の確認ですが、本日、ボリュームのほうがかなりございますので、一つ一つは確認いたしません、説明の際に不足がございます場合には、お申し出いただきたいと存じます。

続きまして、本日の出欠状況でございますけれども、お手元の委員名簿のとおり、細倉顧問、草壁委員、中村委員、山崎委員がご欠席となっております。遠藤委員は出席の予定なんです、まだお見えになられていない状況でございます。また、成田共同委員長が出席予定だったのですが、体調不良により急遽ご欠席となっております。また、草壁委員につきましては、11月1日に川崎商工会議所会頭に就任され、それに伴い本フォーラムの委員も、山田委員から草壁委員に変更となりましたのでご報告申し上げます。事務連絡は以上でございます。

それでは初めに、福田市長から皆様にご挨拶を申し上げます。福田市長、よろしく願いいたします。

【福田市長】

改めまして、こんにちは。大変お忙しい中、本日もご参加をいただきましてまことにありがとうございます。もうあと1カ月でオリンピックイヤーになるということで、何かすごく早いと思いますけれども、来年の7月1日というのが、後ほど説明させていただきますけれども、川崎の市制記念日で子どもたちはみんな学校がお休みと。それに合わせてというか、まことにタイミングよくなんですが、聖火リレーが川崎を通るということで、その出発式を行えるということです。開催都市ではないんですが、大いに子どもたちを含めて、市民の皆さんが盛り上がるいい機会ができたんじゃないかなと思います。

それから、パラリンピックの採火式という、これも後ほどご説明させていただきますけれども、7区各区の火をいろんな形で集めて、それを一つの川崎の火にして送るというような企画もやっていきたいと思っております、ぜひそういったところにも委員の皆様方に、今日ご発言をいただいて、お知恵をいただければなと思っております。

それから、今日は説明がたくさんあるので、とにかく説明時間はなるべく短くして、皆様からのご意見をたくさんいただきたいと思っておりますので、ぜひご協力のほどよろしくお願ひしたいと思います。それでは、よろしくお願ひします。

今ありましたけれども、成田さんが急遽体調不良ということで、先ほどもメールが来たんですが、3月に選考会を控えているということで、本当に無理されないことが一番だなと思っておりますので、ご理解をいただければと思っております。よろしくお願ひします。

【井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

ありがとうございました。それでは本会議の進行につきましては、委員長であります福田市長が務めますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、福田市長、議事進行をよろしくお願ひいたします。

【福田市長】

それでは、資料1について事務局から説明をお願ひいたします。

【永田オリンピック・パラリンピック推進室担当係長】

それでは、皆様、お手元のA3、資料1と右肩に書かれた資料をご覧ください。今年度の主な取組について説明をさせていただきます。初めに1と2でございますが、こちらが、見た目ではわかりにくいと言われております発達障害の方にフォーカスした取組でございます、1番につきましては、川崎フロンターレの本年度の市制記念試合である、7月27日に行われました大分トリニータ戦におきまして、メインスタジアムの中にサッカーの試合を、感覚過敏の方でも見やすいように音や照度に配慮したセンサールームと言われる場所を設置しまして、川崎市内の親子、またアウェーチームである大分の親子にもご参加いただきまして観戦。また、翌日には、川崎フロンターレにご協力をいただいてサッカー教室を開催いたしました。

また、第2回としまして、アウェーの観戦ということで、10月19日のガンバ大阪戦でも同様の取組をしたところでございます。

2番につきましては、先ほど申し上げました等々力陸上競技場の試合の翌日に、新百合ヶ丘にございますイオンスタイル新百合ヶ丘の1階食料品・日用品売り場において、フロ

ア全体の照明を通常より2割から5割程度緩和するとともに、店内のBGMを完全にカットするというので、同じように感覚過敏の方でも買い物がしやすいように、1時間試行的に実施したところでございます。

続きまして、3番でございますが、昨年度から引き続き、バリアフリーに関する職員向けの研修に取り組んでおりますが、今年度はさらに8月に、3副市長及び局長級の職員を対象といたしまして、障害の社会モデルの理解、また合理的配慮の提供の考え方についての研修を実施したところでございます。

次に、4番目でございますが、こちらにつきましては、今年度から区役所と支所の合計9カ所で各3台、合計27台のタブレットを利用しまして、4月から12カ国語に対応しておりますテレビ電話による外国語通訳、また10月からは、聴覚障害者向けのテレビ電話による手話通訳の試行導入をしたところでございます。

2枚目をお開きください。5番目でございます、こちら昨年度からの引き続きでございます「商店舗等におけるかわさきパラムーブメント実践事業」ということで、市内の商店舗等にハード面またはソフト面のバリアフリー接遇が可能な旨を発信するための「パ」ステッカーの掲出を今年度も引き続き、商店街やチェーン店等へのアプローチを継続しているところでございます。現時点で、合計584店舗にご協力をいただいているところでございます。

6番でございますが、こちら昨年度から引き続きでございますが、カワサキハロウィンにおきまして、ダイバーシティへの取組を進めるため、車椅子利用者の方のパレードへの参加、また今年は、「折りたたみ式ハンドル型電動カート」Luggie(ラギー)を利用したパレードの実施も支援させていただいたところでございます。参加者につきましては下段に書かせていただいております。

右側に移りまして7番でございます。こちら昨年度に引き続きブリティッシュ・カウンシルとの連携事業ということで、8月に、オペラや音楽を通してホームレス支援を行っております英国のアート団体、ストリートワイズ・オペラのほか、日英で先駆的な取組を行っております専門家の方を招いたフォーラムを開催したところでございます。

次に、8番でございます。こちらは先週末までの開催でございましたColorsかわさき展、昨年度に引き続き、ミューザで開催されておりました。今週の土曜日、30日にはとどろきアリーナで巡回展がございます。

【井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

1枚おめくりいただきまして、9番、かわさきパラムーブメント各種イベントでございますが、今年で3年目となりますラゾーナ川崎で開催しております「かわパラ」ですけれども、パラリンピック開会式のちょうど1年前の8月25日に開催いたしまして、パラスポーツ体験を中心に、トークショーやライブなどのほか、今回は、広場の中央にやぐらを組みましてオリジナルのかわパラ音頭で盆踊りなどを行いました。また、これまではずっとラゾーナでの実施ということで、市の南部だけだったのですが、今年は新百合ヶ丘と溝の口でも開催し、市の北部と中部にも展開をいたしました。

右側に移りまして、パラコンサート2019ですが、今年で2回目の開催となりまして、6月1日にカルッツかわさきで開催いたしました。ダウン症の書道家、金澤翔子さんの書の実演など、障害を持つアーティストの演目のほか、見る側へのサポートとしまして、手話通訳や音声・点字プログラム、体感音響システムなどをご用意しました。

また、今年のお取組としまして、コンサート前にパーカッションのワークショップを開催しまして、参加者にはアーティストと一緒に本番のステージにも上がっていただくということを取り組みました。

その下の参加型アートイベントですけれども、先ほどのかわパラin新百合ヶ丘と同時開催としまして、大きなキャンパスに子どもたちや障害のある方などが協力して、みんなで絵を描くイベントを2日間開催しまして、資料にあるような7区をテーマにした絵が2枚完成しました。完成した絵は2枚で30メートルになりますけれども、来月から日本医科大学武蔵小杉病院の新築工事の仮囲いに飾る予定となっております。

1枚おめくりいただきまして、10番、サイバスロン車いすシリーズ日本2019ですが、こちらは、前回4月のフォーラムでもご紹介させていただきましたが、5月5日にカルッツで車椅子レース、翌6日には、KCCIホールでシンポジウムを開催しました。車椅子レースでは国内5チーム、海外3チームの計8チームが出場しまして、先端技術で日常生活に必要な動作をいかに正確に行えるかというのを競いました。

また別紙に、パートナー企業との取組をお配りさせていただいておりますので、後ほどご確認いただきたいと思いますが、様々な企業とも連携をしまして、障害のある方々を支援する新しい技術や取組というのをカルッツ会場で紹介いたしました。

説明は以上でございます。

【福田市長】

ありがとうございました。それでは、今年度の取組の説明がありましたけども、委員の皆様からそれぞれ少し補足をいただきたいと思います。と考えております。

まず、インクルーシブなカワサキハロウィンの開催について、土岐さんから。

【土岐委員】

お手元に資料を配付しております。A4の横の紙をごらんください。カワサキハロウィン、今年で23回目が先日、10月末の土日に無事に終わりました、4、5年前からダイバーシティの取組というんですかね、誰でもが参加できるカワサキハロウィンを目指そうということで、障害のある方でも安心して参加できるカワサキハロウィンの環境づくり、主にパレードなんですけれども、取組を行ってまして、実際の現場、参加者の誘致から現場の対応まではピープルデザイン研究所さんをお願いしております。その実施結果のご報告を簡単にさせていただきます。

まず1ページめくっていただきまして、今回、ダイバーシティの取組ということでういったことをやったかというのが大きく5つ、ここに記載されております。まず1番目が、カワハロランウェイ。これはハロウィンパレードの前日、子ども向けのイベントです。例年、キッズパレードという、未就学児童と親御さんとで参加するパレードをやっていたんですが、今年から銀柳街に大きな50メートルのランウェイを設置して、そこを仮装した親子が歩くという企画に変更したんですけれども、そこに障害のある子どもたち、親御さんと一緒にご参加いただいたということです。

2番目が、その翌日ですけれども、メインのパレードの車椅子ユーザー他、障害のある方が参加していただいたんですが、そのサポートを行っています。

3番目が、就労体験です。障害者の方が現場のスタッフとして働いていただくということを、これは毎年やっているんですけれども、メインのハロウィンパレードの最後尾についていただいて、グリーンバードという清掃をやっているボランティアチームと連携してごみ拾い、パレードが終わった後のごみをきれいにさせていただくという作業をお願いしました。

4番目、サポートインフォメーションの設置というのは、ラ・チッタデッラの本部のすぐ近くに、日ごろの健康とか障害に関する悩みの相談の窓口みたいなものを設置したということです。

5番目、ハロウィンパレードのエリア内の多目的トイレマップという地図を作成して、

必要に応じて配布した、以上5つのことをカワサキハロウィンを通じて取り組んでいます。

次のページ以降は、それぞれどんな風景だったか、どういう方が参加して下さったかという結果なので簡単にご報告しますが、まず、初の試みだった銀柳街にランウェイを設置して、そこをモデル気分で歩いてくれるという、そういう趣旨の企画なんですけれども、ここに障害者のお子さんと親御さん、3組6名ご参加いただきました。その様子が下の写真です。とってもほほ笑ましい光景で、参加のこの3組の方にはとっても喜んでいただきましたし、見てる方もすごく温かい感じでよかったんじゃないかなと思います。

次のページは、車椅子ユーザー、メインパレードですね。これもここ数年、最初の年はなかなか、車椅子での参加は募っても全然応募がなく、ちょっとこちらからお願いしてみたいな感じだったんですけれども、年々参加者が少しずつ増えてきて、ああ、こういう感じだったら私も、ああ、こんなだったら私も出たい。随分2、3年前から報道の中でこのシーンがテレビで放映されていたりなんかもして、参加しやすい空気になってきているのかなと思うんですけれども、結構大勢の方、車椅子ユーザー54名、付き添いの方が大体半分ぐらいなんですけれども。

あと、去年は、溝の口のダウン症のダンスチームがあるんですけれども、その子どもたちが大勢参加して下さって、今年も引き続き全部で、付き添いを合わせて52名が参加ということで、これも大変好評でした。

次のページも、それをサポートしている様子になっています。沿道の人とこういう感じで触れ合えるというのがすごくうれしかったという感想が多かったです。

次のページは、パレードの最後尾でスタッフのビブスを着てごみ拾いをしている光景、姿です。ハロウィンは最近あまり評判がよくなって、渋谷の騒動とかがあってネガティブな印象を持たれたりしているんですけれども、川崎の場合は、そういった意味ではすごくクリーンな秩序のあるハロウィンというふうに評価いただいているのは、こういった取組の影響もあるのかなと思いますが、これは、去年今年始めた取組ではなく、ずっと続けている取組でございまして、パレード前よりも町をきれいにしようという目標で大勢の方に作業をしていただきました。

次のページは、本部のそばに設けたサポートインフォメーション、悩み事相談室なんですけれども、あと救急対応というんですかね、けがの対応なんかもしていただきました。

その次が、多目的トイレの地図をつくって、それを必要に応じて来街者に配布すると。必要に応じてというのは、要所要所にインフォメーションのブースを設置しましたので、

そこで、この辺の近くにトイレはありませんかとか、多目的トイレ、車椅子の方なんかは、いろんな機能のあるトイレが必要に応じてご案内できるという体制をとりました。事前に、この場所は多目的トイレがありますよというのをホームページとかで告知してしまうと、何せハロウィンは仮装のイベントなので、着替えが必要な人がそこを使ってしまうという懸念があったので、あえて必要に応じて、周辺にいるスタッフが皆この地図を持ち歩いてあるみたいな、そんな体制で対応いたしました。

最後のページが、参加者です。パレード参加者には、アンケートをとりまして、25人ぐらいアンケートへの回答をいただいたんですけども、参加して楽しかった、とても楽しかった、あるいは、これ、「あちがとう」になっていますが、「ありがとう」です。「ありがとう(感謝の言葉)」というのを合わせると、8割、9割の方が非常に参加してよかった、うれしかったということです。

下のコメントを見ると、日ごろお祭りとかイベントに参加する機会ってなかなかない中で、こういった環境、配慮の行き届いた中でいろんな人と接触できたことが何よりうれしかったというコメントがすごく多かったです。あとは、渋谷との比較で、川崎はとってもいいですねみたいなコメントも多かったです。

中には、苦言のようなコメントも幾つかあります。集合場所からスタート地点まで遠いとか、パレードが終わった後の混雑がひど過ぎて移動が大変だったとか、改善しなくちゃならない点もいろいろあったんですが、押しなべて高評価だったので、来年以降、さらに充実した内容で続けていきたいなと思っています。以上です。

【福田市長】

ありがとうございます。須藤さん、何かプラスすることありますか。

【須藤委員】

今のご報告のとおりです。おかげさまで、最後に、今土岐さんがご報告の中でお話しされましたけれども、暮らしの保健室という、これは昨年もそうだったんですが、井田病院のメディカルドクターの西先生が、社会的処方という切り口であわせて展開している活動で、こういった市内の今あるコンテンツをより医療・福祉系であったとしても、この晴れのハロウィンというパレードに持ち寄ることで、かなり参加者の方に喜んでいただける川崎市の「ならでは感」がより磐石になりつつあるなというのを現場で実感しておりました。

【福田市長】

ありがとうございます。それでは続いて、ブリティッシュ・カウンシルとの連携事業について、湯浅委員からお願いします。

【湯浅委員】

先ほど市長からも、あともう1カ月でオリンピックイヤーですというお話もありましたけれども、ここ数年、川崎市の皆様と英国の、特にアートに関係者をつないだいろいろな交流事業というものを、特にこのパラムーブメントをサポートし、推進につながるような形で事業を展開しています。

先ほどご説明をいただきましたけれども、英国のストリートワイズ・オペラというアート団体があります。ストリートワイズ・オペラというのは、音楽を使って、ホームレス状態にある方々が一步前に進むということをサポートする、そういったことをホームレスセンターの方、福祉関係、行政、アート団体と連携して行っているという団体です。先進的な取組で英国でも非常に注目をされているんですが、特にロンドン五輪の2012年の文化プログラムの中で、それまでの世界の歴史の文化プログラムで、初めてホームレスの方たちが文化プログラムに参加したというプロジェクトを推進しました。2012年のときには、ロイヤルオペラハウスのホワイエで300人以上のホームレスの方々が、プロの音楽家と一緒に演奏したりアートを披露しました。

その後、リオの五輪でも、特にホームレス支援施策というもののの中で、アートとの関係というのが今なかなか各国それほど進んでいない中で、世界中でいろんな先進的なプロジェクトが行われているので、そういったものをグローバルに連携しながら推進していこうということで、リオ五輪の際にも英国と、そしてブラジルの関係者の交流プロジェクトをオリンピックの数年前から進めています。特に彼らのやり方としては、英国式を持っていくということではなくて、その国のコンテキストに合わせて、そしてその国の中でレガシーが残っていくようなものを推進していきまして、特にブラジルでは、暖かいので路上にいろいろな方がいらっちゃって、そこでドラッグのリハビリとか、ストリートチルドレンの支援の一環で音楽が使われているということがあり、そこでそういったことができる仕組みづくりに貢献しました。その結果、ブラジルではホームレスの方々のコーラスグループができ上がり、そして今も美術館と連携した事業が行われています。

2020年、東京五輪を迎える日本でこういった、今日本でも社会課題がある中で何ができるだろうかということで、今年の夏にストリートワイズ・オペラが中心となり、英国

でそういった活動をしている人たち、あとマンチェスターの行政の方が10人、日本にリサーチに来ました。その一環で、川崎市さんとお話をさせていただいてフォーラムをしたんですが、殊、日本の場合は、ホームレスということではなくて、今孤立を抱えた方々が非常に多くて社会問題になっているということがありますので、孤立や生きづらさを抱えた方にとって芸術が何をできるだろうということを話し合う機会としてフォーラムを行いました。

そこで、川崎のフリースペースたまりばの理事長の西野さんにもスピーカーとしてご参加いただいて、あと、精神科医の斎藤環先生にお話をいただいたんですが、殊、日本の中では引きこもりが非常に大きな問題で、報道でも今100万人を超えて、特に40代から50代の引きこもりの方が多いというお話をしていただきまして、おそらく日本の中でそういった孤立を抱えた、または社会との断絶がある方の中で、芸術、アートというものが、そのほかのセクターの方と連携して何ができるのかということをお話し合った機会になります。

その中で、川崎で行われているすごく素晴らしい事業についてもご説明をいただき、あとは、マンチェスターは、特にホームレス支援施策の中にアートというものが、行政の中でも縦割りを打ち破って連携ができるような形で、ジグソーモデルというふうに言われていますけれども、ジグソーのピースとして生活保護や社会支援、そして芸術というものが、連携した取組が今行われていまして、そういったことを共有してもらいました。今後これから来年に向けて、日本で一体何ができて、そして何が残っていくのかということをお話と話をしているところです。

お手元の資料で2枚、真ん中に「パ」がある資料を配らせていただきましたが、今年度、ちょうど来週になりますけれども、同じこのパラムーブメントの推進につながる取組の1つとして、英国の芸術団体でドレイク・ミュージックを川崎市さんと共同で招聘いたします。ドレイク・ミュージックというのは、テクノロジーを活用しながら、障害のある方が障害を理由に音楽ができないということがないように、そうした障壁を取り払う様々な取組を行っています。ここ2年ほど、川崎市さんとはこのドレイクの取組をしておりまして、音楽のまち・かわさきといういろいろな取組もされている川崎市さんの中で、活動をする音楽家の方、テクノロジストの方、そして障害のある当事者の方々が一緒に音楽ができる環境をどのようにつくっていくのかということで、実際にそうした活動を支援できる音楽家の育成のトレーニング、さらに今年度については、テクノロジストの方、デザイナーの

方々と、そうしたアクセシブルな楽器づくりのプロトタイプをつくっていくようなワークショップを今計画して、募集をして、もうすぐ締め切るところでございます。

楽器づくりのワークショップ、特に日本でもいろんなテクノロジストの方々の先進的な取組があると思いますが、英国は特に、ピープル・センタード・アプローチといえますか、当事者を中心に据えた、障害の社会モデルを中心に据えたこういった開発の事業も行われていますので、特にこのテクノロジストのワークショップの中では、事前に1日、障害の社会モデルの理解を促進し、当事者の方々と一緒につくっていくインクルーシブな取組のあり方というものを一緒に学べるワークショップを1回した上で、来週の土曜日に実際に楽器づくりのワークショップをしていきます。委員の皆様の中でもご関心のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ見学に来ていただければと思いますし、お知り合いの方でこういったことにご関心のあるテクノロジストの方、またデザイナーの方がいらっしゃいましたら、ぜひ。まだご参加大丈夫ですので、ご案内いただければと思います。

また、成果については発表させていただきながら、このドレイクとは、来年パラリンピックも行われる中で、川崎市の障害のある方々、障害のない方も一緒に音楽を発表できる機会をつくってこうということで、ホールの方、オーケストラの方とも今相談をしています。以上です。

【福田市長】

ありがとうございました。

それでは続きまして、Colorsかわさき展について、多田委員からお願いできますでしょうか。

【多田委員】

昨年に引き続きまして、本年もColorsかわさき展を開催してまいりました。先ほどの報告にもございましたように、先週まで行ってございまして、10日間で1,200人以上の皆さんにご来場いただきました。アンケート等につきましては、今取りまとめ中でございますけれども、次回に期待する、あるいは改善してほしいという点では、ワークショップを多く開いて、来た人がどんどん参加できるようなイベントもあわせて取り組んでほしいですとか、写真ですとか、ほかのテーマ、アートなどにも広げてほしいというようなご要望もいただいております。

昨年、販売支援ということでポスティングの情報提供をさせていただきまして、今回も同様に販売支援を行いました。昨年、「せっかくの展覧会なので1カ所10日間で終わるの

はもったいないのではないか。」というご意見をいただきまして、本年は、規模は小さいんですけども、巡回展といたしまして、11月30日にとどろきアリーナのほうで「手をつなぐフェスティバル」の中の共催として20点ほどの出展もさせていただきました。そちらのほうでもポスティングについては、続けていくということにしております。

それから、もう一つが、今日図録などをお配りさせていただいているんですが、図録の最終ページに、幸高校の1年生の生徒と、それからstudio FLATの障害を持つ方たちの交流による創造事業といいますか、アート事業というのを紹介させていただいておりますが、こちら高校生がスタジオに通う、スタジオの子が高校に通うという相互交流をする中で、高校の先生にもすごく喜んでいただいて、「交流ができた、バリアがとれたというような体験をさせてもらった。」等、おっしゃっていただきました。そういった貴重な経験も含めて、ただ展覧会で終えてしまうのはもったいないということで、12月9日から2月6日にかけては、幸区役所や、第3庁舎でも展示を続けることになりました。これも市長のほうからアドバイスいただいた事業となっておりますが、こうしたことも進めてまいりたいと思っています。

それから、宣伝が少し足りないんじゃないかとの声もいただいておりますので、今回、アートニュース、今日お配りしていませんが、私どもの財団で毎月出しております情報誌なんですけど、ここでもColors展のプロセスですとか、参加した人の感想、作者の感想なども含めて特集を組んでまいりました。

さらにこのColors展に付随しているんですけども、11月から「ばらあーと ねっと」というホームページを立ち上げまして、私ども財団のホームページからもご覧いただけます。この特徴は、様々な情報を相互通行といいますか、登録するフォームがありまして、いろんな障害にかかわる、例えば障害者の集いですとか、あるいはイベントですとか、そういうものを掲載できるようにしております。メンバーシップの中で登録制とすることも考えましたが、こうした情報というのは、登録制ですとかメンバーシップに限るよりも、多くの皆さんが自由にそこに参加し情報掲載できるような思いでスタートしております。ただし、それぞれが情報の責任を持つということ、それから、問い合わせもしていただくということで、それを注意しながらですが、これが大きく広がって交流のプラットフォーム的なものになればいいなと思っております。11月14日から本格的に稼働しておりますので、もし機会がありましたら、ホームページをのぞいていただければと思います。以上でございます。

【福田市長】

ありがとうございました。それでは、今ご報告いただきましたことを含めて、今年度の取組全般についてご意見などいただければと思いますが。

瀬戸山委員は3時ごろご退席ということで、もし何か、ちょっと先の話でも結構ですので、ご発言、何かございましたら。

【瀬戸山委員】

特にないんですけども。

【福田市長】

大丈夫ですか。

【瀬戸山委員】

うちの選手、川崎のビーチバレーの選手が5月23日に高輪ゲートウェイでビーチバレーの日本代表の選考大会があるんですけども、女子は東京の高輪ゲートウェイで、男子は大阪のグランフロントで。そこで優勝したチームがオリンピックの出場権を獲得するというので、川崎市在住の選手がいっぱいいますので応援していただければと思います。以上です。

【福田市長】

ありがとうございます。

それでは、どうぞ、何かご意見などございましたら。

【小倉委員】

よろしいですか。質問が3つほどあるんですが。まず1つ目が、資料1の最初の①のところの2番のクワイエットアワーというのを新百合ヶ丘で実施されたということなんですが、これはこれ1回きりで終わるのか、これを起点にして今後市内に展開されるのか。結果、これでどういう反響があったかとか、その辺のところをお伺いしたいというのが1つ。全部最初に言ったほうがよろしいですか。

【福田市長】

はい、お願いします。

【小倉委員】

それから、もう一つは、4ページのタブレットなんですけれども、先ほどテレビ電話とおっしゃっていたんですが、実際に受付に言って聞けばあるということでもいいんでしょうか。それが外国人にどのくらい伝わっているかというのを、どういう広報をされているか

ということを知りたいということ。資料1はそれで結構です。その2つ。

【永田オリンピック・パラリンピック推進室担当係長】

では、まず、1つ目の2番のクワイエットアワーについてでございますが、今回、試行的な実施ということで、当然、今後展開していくということで動いております。ただ、現時点でまだ具体的な予定というのはございません。来年以降に展開していきたいと考えているものでございます。

タブレットの件についてでございますが、現在、各区役所、支所に3台ずつということで、窓口全てにあるわけではございません。ただ、タブレット、iPadですので、隣の窓口ですとか、そういったところにお持ちして、どこでも使えるようにというような対応はさせていただいているところでございます。

広報なんですけれども、市政だよりですとか、そういった私どもで掲載できる媒体を使用して広報はさせていただいております。多言語については、4月の実施から毎月着実に件数は増えておりまして、ご利用いただくことで口コミなどを通じて広がっているのではないかと考えております。以上でございます。

【小倉委員】

ありがとうございます。

【福田市長】

よろしいでしょうか。クワイエットアワーをやってみたイオンさんとか店舗側の意見って何かありました？

【永田オリンピック・パラリンピック推進室担当係長】

お買い物客から、暗くなっているのなかなか使いづらいといったご意見もやはりありまして、なので時間を決めてやること、一日中やるのは現実的ではないねというお話ですとか、海外ではクワイエットアワーを設定することで今まで来られなかったお客様がいらっしゃるようになってきているという事例もありますので、企業さんにとってもメリットがあるということで、イオンさんとしても今後続けていきたいというようにお話をいただいております。

【福田市長】

よろしいでしょうか。

【小倉委員】

広報がやっぱりどっちにしてもうまくいってないのかなと思ひまして。いいことをやるんだったら、もうちょっとみんながわかるようにして、それを参加することで体験するようにやっていただければありがたいなと思ひます。

【福田市長】

ありがとうございます。

ほか、ございませんでしょうか。

【中森顧問】

いいですか、1つだけ。資料1の3番、「心のバリアフリーに関する研修」というところで、「合理的配慮」ということが出てきているんですけども、それと、先ほどブリティッシュ・カウンシルの「パ」の資料の一番下、障害の社会モデルというところでのコメントが以前からすごく気になっていることなんですけれども、障害は社会がつくり出すというこのコメントと先ほどの合理的配慮というのが結びついていて、ぜひ公共施設の管理に当たる人に対してこの研修をしていただきたいなと。要は車椅子の人が利用できないのは、車椅子という障害ではなくて社会がそういうバリアをつくっているというふうな意識改革をしていかない限り、多分つながらない。せっかくこういう研修もされているし、こういうイギリスのいい取組、考え方も出てきたので、多分日本ではそんなに、一部の障害のある議員さんが言い出していることは確かなんですけれども、川崎が一番にやってもらって、それを東京のレガシーとして発信していただければと感じました。

【福田市長】

ありがとうございます。研修を受けた局長、副市長、何かコメントがあれば。

【加藤副市長】

ちょっとこの研修の内容は、種明かしになっちゃうので言えないんですけども、気づきという観点からすると非常にいい研修だったと私どもは思っています。ぜひこれは多くの方に経験していただきたいと思ひますので、ぜひ事務局のほうからもPRしていただきたいと思ひます。

【向坂市民文化局長】

本当に、やってみないとわからない研修というその秘密があつて、そういう中でしっかりと自分たちで視野を広げていろんなことを考えないと、1つ自分の中でルールを決めてしまうと、それに従っちゃうなというところがありますので、大きな視野で見て物事を考

えなきゃいけないというところを学んだ研修かなと思っています。

【福田市長】

研修内容は公にしてはならないという、何それ、ええっ？ という話なんです。ですから皆さん受けてくださいということなんですよね。だから、職員もなるべく階層別にどんどん受けていくというか、そういうふうになると施設管理だとかを含めて、ハード系だけじゃないものというのがいろいろ変わっていくものにつながっていくと思うので、それはしっかりやっていきたいなと思います。

【中澤委員】

今の研修の話もそうなんですけれども、いろんな事業になっている中で、障害のある人、誰でもいいんじゃないかと、訓練された伝える力を持っている人、そういう障害者を成長させるというか、そういった取組をやっていくと社会モデルというのは実現していくのかと。

私もそうなんですけれども、やっぱり昔から障害があるということでしょうがないな、障害があるから我慢しなきゃいけないな、そんなふうに思っている人ってすごく多いんです。日本の社会って、社会の仕組みがそうなっている。変な話、小学校からずっと別の学校に行かされちゃうので、こういう問題を変えていくためには仕組みを変えなきゃいけないけど、もっとしっかり深く交流ができるようなというか、当たり前と一緒に暮らせるような社会にするためには両方に一歩ずつ前を出てもらう、そういう取組をやらなきゃいけないと思うんですよね。

だから、この研修なんかも、検定とかそんなのはどうでもいいんですけれども、当事者の思い、それから社会に対してどういうふうに思っているか、こんなようなことも含めて一緒に話し合えるようなワークショップ的なものをどんどんやっていく。川崎市民の中でそういう人が育っていくようなそんな形でやっていって、あとはこんな研修をやらなくても、みんなここで育っている人たちはそれを当たり前でできるんだよ、そういうことができるようになるためにはまずそこからやらなきゃいけない。

それから、研修内容を他言無用というのもちょっと変だなと思いますね。私の意見はそんなところですよ。

【福田市長】

ありがとうございます。

【大塚委員】

似たような形ではあるんですけども、ユニバーサルマナー検定をやっていることはもちろん存じ上げているんですが、市の職員さんで障害当事者の方というのは参加されていないんですかね。局長クラスの方で。

【福田市長】

今回は、局長級で参加してないですね。

【大塚委員】

我々のNPOでやったりもするんですけども、障害当事者の方が入っていただいで一緒にやっていくことが結構いい学びになっていくことがあるんです。それを健常者の皆さんだけで考えていくとファンタジーな世界に行ってしまうことが結構あって。そうではなくて、実際に市の職員の方でいらっしゃるのであれば、そういった方々が入って行って、このユニバーサルマナー検定という、他言無用というのはちょっと変だと思うんですが、それを川崎市らしさをつくった研修に仕立て上げて行って、その講師は川崎市の職員の方で障害当事者の方が広めていくということになっていったほうが、川崎市在住の障害当事者の方がどんどん成長して行って、中澤さんがおっしゃっていたようなリーダーを育てていくような感じにつながるんじゃないかなと思うので、これを全てとするのではなくて、受けていただいた皆さんが、これをアップデートしていったものを川崎モデルとしてやっていったほうが、僕は全国に先駆けていい事例になるんじゃないかなと思います。

【福田市長】

そうですね。おっしゃるとおりです。ありがとうございます。

湯浅さん、どうぞ。

【湯浅委員】

英国のお話もいただきましたけれども、私どものほうでは、過去2年ぐらい、シェイプ・アーツという英国で特に障害の社会モデルを下敷きに、芸術団体で働く人たちがバリアを取り除けるようなアクセシビリティのトレーニングをしている団体と協働してまして、川崎の芸術団体の方と市の方にもトレーニングをしたんですが、まさにそのときのトレーナーの方は障害のある方でして、英国の中でも、多分一番のコンセプトに障害の社会モデルというものがあって、もう一つが、英語になりますけれども、for disabled peopleというと、障害のある方のためということになるんですが、こういった全ての事業は、with disabled people、by disabled peopleというように、障害のある方たちが主体的に先導し

ていくということをサポートするというのが一番の基本コンセプトで、やってあげるとい
うことではなくて、一緒に、共に進んでいく。

その中で障害のある今後リーダーになる方々、あとはトレーナーという職業があるわけ
なので、職業としてトレーニングをする方というものを、育成のトレーニングというのも
非常にあります。ちょうど5日にワークショップのトレーニングを行いますので、これは
特にテクノロジストの方のワークショップ向け、参加する方向けですが、そうじゃない方
も大丈夫でして、このトレーナーの方も実は障害のあるアーティストで、実際にトレー
ニングができるトレーナーとしても活動されている方になりますので、ご関心があれば、ぜ
ひご参加いただけるといいなと思います。

先ほど、もう一つ、音楽の楽器づくりのワークショップをしましたが、ここですごく大
事に行っているのは、障害のある音楽家が参加してくれるということなので、参加対象者に
テクノロジスト、プラス障害があっても音楽ができないと思っている方たちと一緒につくっ
ていくということをしたので、そういった方にも参加を今呼びかけていまして、お知り
合いの方でそういうニーズがある方、音楽をやりたいのにできない方がいらっしゃれば、
ぜひそういった方もご参加いただけるといいなと思います。せっかく川崎でやりますので、
見ていただければなと思います。

【福田市長】

ありがとうございます。よろしいでしょうか。

今年度の取組も、ややチャレンジな取組ということなんですけれども、これをやっぱり
日常化していくということが大切、ゴールになってくるので、そのための、まだややチャ
レンジ感はあるんですが、そういった意味でも研修を受けた、大塚さんがおっしゃって
いただいたように、自分たちが逆にリーダー役になって広めていくという、そういう立場に
なれるようにレベルアップしていかなきゃいけないかなと思っています。

それでは、次の議題、よろしいでしょうか。それでは、資料2と3について、事務局か
ら説明をお願いします。

【井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

それでは、A3の資料2をごらんいただきたいと存じます。英国代表チームの事前キャ
ンプの受け入れに当たりまして、行政だけではなくて市内企業等の協力により、オール川
崎一丸となってキャンプの成功、あるいは代表チームの活躍を後押ししていこうというこ
とで、先月になりますけれども、28日に英国代表チーム川崎キャンプ推進協議会という

ものを設立いたしました。資料の下のほうにございますように、協議会の体制としましては、まず市長が顧問を務めておりまして、真ん中の点線で囲まれた部分に「運営委員会」とございますが、協議会の運営主体としまして、地域貢献等を目的に活動している各界の8つの団体で構成しておりまして、商工会議所の草壁会頭が会長、また国際交流協会とスポーツ協会の会長が副会長を務めております。さらに、教育的な視点での意見をいただくために、市立の小学校、中学校、高校、また特別支援校の校長会長にオブザーバーになっていただいております。

そのほか、会員となる企業、団体の資格としましては、市内に事業所、事務所等があることと、1口3万円の協賛金をご負担いただくこととなっております。また、個人の方からも1口1万円の協賛金によるご協力を募っております。市内在住・在勤等の要件に関係なく、どなたでもご協賛いただけるということになっております。

1枚おめくりいただきまして、上の「活動の考え方」ですけれども、円が2つございまして、円の上の白い部分、こちらは川崎市が行う活動ですけれども、主に英国との契約に基づく事業ということでございまして、次に、円の重なった青い部分、こちらは市と協議会がコラボして行うものなのですが、例えばウェルカムパーティー等、市が主催をしまして、協議会が共催するといったことや、例えば市がつくったポスターといった広報物を会員企業に貼っていただくといった広報面での協力、また円の下の薄い青の部分、協議会単独で応援の機運醸成に向けたオリジナルデザインのポスターやのぼりを作成して広報を行うですとか、キャンプ時、選手に対する飲料水の提供、あるいは記念品の提供といったことを行う予定でございます。

1枚おめくりいただきまして、3枚目、下の3の部分ですけれども、そのほか、会員の皆様からは代表チームへのおもてなしのアイデア、こういったものを募集する予定でございます。

なお、1枚おめくりいただきますと、A4で、会員・協賛募集のチラシがございますので、恐れ入りますが、皆様におかれましても、もしご賛同いただけるということでございましたら、こちらのご検討のほうをよろしくお願ひしたいと存じます。

【笹倉オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

続きまして、1枚おめくりいただきまして、資料3をごらんください。事前キャンプ受け入れ準備についてでございます。

まず初めに、英国代表チームによるトレーニングキャンプの実施でございますが、今年

の5月に世界リレー大会に出場しました英国の陸上チームが等々力陸上競技場でトレーニングキャンプを行った際に、あわせて市立高校の陸上部の生徒との交流事業を実施したところでございます。

また、来年の3月の中下旬になりますけれども、英国パラリンピック代表チームが陸上トレーニングということで、同じ等々力陸上競技場でトレーニングを実施する予定でございます。

続きまして、英国代表川崎キャンプサポーターの募集・登録についてでございます。7月1日から約2カ月間にわたりまして、事前キャンプで活動するボランティアを募集しましたところ、当初の想定を大きく上回ります1,601名の方からご応募をいただきました。その後、9月、10月の面談会を経まして、ちょうど本日でございますけれども、230名のサポーター登録者を決定いたしまして、結果を本日お知らせする予定でございます。また、残念ながら選考から漏れてしまった方につきましては、大変熱意のある方が多いことから、希望に応じまして、事前キャンプ関連情報や関連イベントへの参加機会を提供するという事など、オリ・パラへの関わりを継続的に持っていただこうと考えているところでございます。

次に、英国との交流事業の展開についてでございますけれども、本年の7月に市立の中学校、9月に市立の小学校、10月に公設公営の保育園の給食におきまして英国応援献立メニューを提供するとともに、英国にゆかりのあるゲストをお招きいたしまして、交流事業を実施いたしました。実施にあわせて、全児童・生徒にチラシやランチョンマットなどを配布しまして、事前キャンプの広報を行ったところでございます。

また、次のページにもチラシはご用意してあるんですけれども、来月12月5日に川崎フロンティアビルのKCCIホールにおきまして、英国パラリンピック委員会のスポーツ局長兼英国選手団長のペニー・ブリスコー氏による講演会を開催する予定でございます。

【井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

それでは、資料3の右側をごらんくださいと思います。英国応援・エンゲージメントの取組ということで、先週の土曜日、23日になりますけれども、溝の口駅の近くの高津市民館で「GO GB英国フェスティバル」を開催いたしました。これは先ほどご説明しましたかわパラin溝の口と同時開催したもので、英国ゆかりのコンサートや映画上映、また英国の食文化体験ですとか、応援フラッグの製作ワークショップなどを行ったところでございます。

中ほど、その他プロモーションとしまして、等々力硬式野球場の工事の仮囲いに縦3メートル、横約8メートルの「GO GB」ロゴマークを掲出しているほか、今月からになりますけれども、溝の口駅のキラリデッキに「GO GB 2020年 英国代表チームがやってくる！」というイルミネーションを来年の1月中旬まで実施しているところでございます。

また、9月、10月には、川崎駅の地下街アゼリアにおきまして、英国代表チームをテーマにした花の展覧会、花展を4日間開催したところでございます。

その下、新たな広報グッズとしまして、お手元にもお配りしておりますけれども、ポケットティッシュですとか、川崎市の英国事前キャンプのPR大使に就任しました「きかんしゃトーマスとなかまたち」を活用したグッズとしまして、今日、お手元にステッカーもお配りしておりますが、チラシですとか、ポスターやのぼり旗、またペーパークラフトのサンバイザー、顔はめパネルといったものを製作しまして、特に小さなお子さんが多く来るようなイベントなどで配布しているところでございます。説明は以上でございます。

【福田市長】

何かご意見、ご質問をいただけましたら。

【中森顧問】

川崎市が英国チームを応援している、サポートする。まちを挙げてやっていることがよくわかるんですけども、実際、英国チームは競技が終わった後、市内でいろいろやってくれるのではないかなと思うんですけども、そういう計画はぜひ今からやっておいたほうが。多分、オリンピックもそうですけれども、パラリンピック選手も、競技が終わればホストタウンに対して何らかのお返しというか、したいと思っていると思うんです。だから、どういうことができるのか、どうすればできるのかということは今から打診しながらやっておいたほうがよりスムーズになるような気がしますし、例えば学校訪問、終わって選手が学校に行くとしても、学校側からの何か受け入れの調整とか、急に決まっても急にやるのはバタバタしちゃうので、そういうことが可能であるということを確認しながら。終わったところで、2日でも残ってもらっていろいろ回ってもらおうとか。

選手村は、競技が終わってもずっと泊まれるんです。一部のオリンピック選手なんかは、ひよっとしたら終わればすぐに自国に帰っちゃうかもわからないですけども、こういうことを事前に言っておけば、2、3日延ばして、競技が終わった翌日、その次の日に川崎のどこかの小学校へ行って生徒と交流するとか、そういうことは多分やってくれると思う

んですよね。ただ、その辺の交通の案内とか、そういうのが必要かもわからないですけども、それもあわせて計画されたらどうかなと思って。いっぱいやってあげることが多いなということと、逆にチームからもらうというか、そのことも。

【福田市長】

そうですね。実は、英国との契約にはかなりそういった細かいことまで含まれていて、既にその契約は結ばれているので、事前のところも含めて、かなり調整できている感じですかね。あと、アフターの話は、ちょっとまだかな。オリパラの後の調整はまだできていない感じでしたっけ。

【笹倉オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

正直なところ、まだできていない状況でございます。

【福田市長】

後ですよね。

【中森顧問】

ここに（BPA選手団長の）ペニーさんが来るので、ペニーさんはすごく優しくて、自分たちがまず最高のパフォーマンスを上げるために必要なことをどんどん要求してくると思います、準備のためにね。それと、サポートを受けた側に対しても、要望があればできることは全てやってくれるというか、そんなことがあるので、せっかく来られるので、そういうことも言っておいたほうがいいのかと思います。

これは国際パラリンピック委員会と東京2020の組織委員会との定期的な、年に2、3回やっている会議があって、そこに各国NPCの、要はよくわかった国のNPCの代表が来て、東京の組織委員会にいろいろ、現在の準備状況に対して意見を言う場があるんです。その1人に入っているんです。だから、すごく経験豊富な人で。パラリンピックの最終目標は、今回パラムーブメント、川崎市さんがやっているこういう共生社会の実現というのが一番大きな目標、目的なんです。大会をやることで、ホストをした国の障害のある人たちの社会生活全てがより向上していくと。それをレガシーとして残すというのが大きなこと。そのこともよく理解されている方なので、いろいろ言ったらできると思います。

【福田市長】

ありがとうございます。

【横島委員】

大変ありがたいお話。ちょうどこの時期、全国の障害者スポーツ大会の強化練習の時期なんです。等々力陸上競技場を今までお借りして強化練習をしていたところなので、ぜひそういった交流をしていただいて、目の前で超一流の選手たちの実物を見ながら自分たちのモチベーションを上げていけば、川崎市もまた障害者スポーツ大会で多くの金メダルを獲得できるのではないかと思います。ありがとうございました。

【中森顧問】

ちょっと補足ですけれども、リオでは多分、英国チームは2番目かな、金メダルランキング。

【福田市長】

そうですね。

【中森顧問】

ホストの2012年は3位でしたね、金メダルランキング。でも、メダルランキングは2位かな。だから、世界でも、中国の次に一番メダルをとっているのはここなんです。

【杉山委員】

今のお話につながっている、この後、イギリスと川崎市さんとの関係をどういうところに持っていかれるかというのも、以前お話があったかもしれませんが、1年後、3年後、5年後というホストタウンとしての関係性みたいなのが、もしお考えがあれば教えていただき、そのために何ができるかということが検討できればと思うんですけれども。

【福田市長】

今いろんな形で、BOA、BPAというふうな形でつながって、オリンピック・パラリンピックの後もということですが、実際に、恒常的にこれからもブリティッシュ・カウンシルさんなどと一緒に文化面で交流していくということも考えられますし、せっかくつくったご縁ですから大切にしていきたいなと。

余談ですが、川崎市内の浄水場の上部利用みたいなのところがありまして、上部利用というか、空きスペースをブリティッシュスクールが今年から借りるようになりまして、日本で幾つあるんだろう、ブリティッシュスクールって。2つかな。首都圏では1つだと思んですが、そこの学生さんたちが川崎に日常的に来ているということも、このオリ・パラとは別に進んでいたり、英国との関係というのはいろんなところで深くなってきておりますので、そういう意味では、これからも交流は続けていきたいなと思っておりますが、まだ

その先でどんなことをというのはまだちゃんとしたスキームができていないので。

【杉山委員】

なるほど。先ほど、給食で英国のメニューをとという話もありましたので、おそらく選手及び関係者の方は、川崎でも食事をされたり、いろんなお店に行かれると思うんですけども、例えばそこで彼らが気に入った川崎ならではの食材を使ったものだとか、食事なんかがわかれば、またそういったものを発信していくことも可能でしょうし、逆もあるかなと思っていますので、そのあたりもいろいろと。食とかドリンクを通じてできればなと思っています。

【福田市長】

ありがとうございます。

【杉山委員】

よくイギリスは、なかなか味覚がと言われるんですけども、一方でかなりレベルが上がってきていたりもされるので、そういった交流も深まればいいのではないかと思います。

【福田市長】

確かにBOAとBPAの、ペニーさんなんかも含めて、私、何回も川崎で食事をしてるんですけども、いまいち食の趣味がよくわからない。いまだにどこにポイントがあるのかがよく。

【中森顧問】

ビールじゃないですか。

【杉山委員】

ビールはありますよね。

【福田市長】

まあ、ビールはそうなんですけどね。

【中森顧問】

ビール好きですよ。

【小倉委員】

ちょっと質問よろしいですか。

【福田市長】

どうぞ。

【小倉委員】

資料2の最後のページの表のところに、「シティドレッシング」と書いてあるんですが、内容的に広報協力とどう違うのか。なぜこういう片仮名で書いてあるのか。一般の人にちょっとわからないと思うんです。その辺のところ、どういう切り分けをされているのかというのを教えていただければ。

【井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

シティドレッシング、ちょっと片仮名でわかりづらいところもあるかと思うんですが、要はシティをドレッシングするということで、街中をいろいろ、フラッグですとか横断幕とか、そういったもので飾りたてるというような意味なんですけれども、広報というところとの使い分けは、そんなに違いはないんですけれども、一言でシティドレッシングというところで機運醸成を表現しているんですが、その辺の使い方は、資料的にはこれから少し気をつけたいと思います。

【福田市長】

要は、今までのぼり旗だとかポスターだとかというのを公共施設とかに置いてたというふうなところから、街中のバナーだとか、ああいうものでわーっと目立たせていくという、街中を、要するに官公庁みたいなのところだけじゃなく、まちを飾るということに注力していくということなんです。

【小倉委員】

ただ、一般市民は多分わからないと思うので、広報協力というので十分かなと思うんです。いわゆる役所と一緒にいろんなことを、一緒に使っていくということですよ、そういうバナーでも何でも。だからその辺がちょっと。ここに書いてあるんだったらどう違うんだろうというのがありますのでね。担当者はわかると思いますけれども、一般に言うときには、広報でいろんな市民とか企業にもご協力いただけますとか、そういう普通の言葉にやったほうが私はいいと思います。

【中森顧問】

ちなみに、協議会の企業はどこかに書いてましたっけ。何社ぐらいあるんですか。

【井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

10月の末に設立したんですが、そこの設立総会の中で、少し企業さんの条件、意見が出まして、結局、固まったのが今月中旬ぐらいになってしまったというところもございまして、いろんな場面で広報はしているんですけれども、今正式に手を挙げていただいて

いるところは、この8団体以外で言いますと、団体さんとしてはまだ2、3の状態というところがございます。ただ、ご内諾は得ているようなところは複数ございますが、まだこれからというところがございます。

【中森顧問】

気になるのは、先ほどの3ページの右にあるいろんなドレッシング媒体と言ったほうがいいのかな。媒体を使えるわけですか、企業は。例えば「きかんしゃトーマス」を使えるわけなんですか。

【井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

私ども川崎市としてつくったものを会員企業さんに、数の限りはありますけれども、幾つか飾っていただけるということであれば、ご提供したいなと考えています。

【中森顧問】

企業が使うことはできないんですか。

【井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

それ以外に協議会オリジナルのものを、これからデザインを考えるんですけども、集まった協賛金等、川崎市からも負担を出しますけれども、その協議会のお財布の中でオリジナルの広報グッズもつくって広報していくということを計画しているところがございます。

【福田市長】

何かご意見ありましたか。

【遠藤委員】

大丈夫です。

【福田市長】

よろしいですか。特にないようですので、それでは、次の議題で、資料4について説明をお願いします。

【永田オリンピック・パラリンピック推進室担当係長】

それでは、A3横、右肩に資料4と書かれた資料をごらんください。こちらは、来年に向けた取組ということで報告をさせていただきます。東京2020オリンピック・パラリンピック、それぞれの聖火リレーについて、現時点でご案内できる情報をこちらに記載しております。左側がオリンピック聖火リレーについてでございます。全体としましては、来年の3月26日、福島県を皮切りとしまして、7月24日の開会式に向けて、全国各都

道府県を聖火リレーが行われる予定となっております。神奈川県につきましては、6月29日から7月1日の3日間が予定されておりました、冒頭、市長のご挨拶の中でもありましたが、7月1日、川崎市の等々力陸上競技場を出発するという事で現在進んでおります。7月1日は、本市の市制記念日ということでございまして、小中学校がお休みということもありますので、陸上競技場には席数が2万席以上あるということで、出発式と合わせまして、市としましてもセレモニーを行いたいと考えております。内容等は現在、調整中でございます。また、ルートの詳細につきましては、年末に組織委員会から発表される予定でございます。

続きまして、右側、パラリンピックの聖火リレーについてでございます。こちらは先週、報道発表されたばかりの内容でございますが、パラリンピックにつきましては、各都道府県で採りました火を最終的に東京都に集めまして、ストック・マンデビルの火も持ち寄りましてパラリンピックの聖火になるということでございます。

競技開催都市でない神奈川県につきましては、8月13日から17日の間に聖火フェスティバルを開催するという事になっております。聖火フェスティバルでございますが、中段にございますように、採火、そして聖火ビジット、出立という流れになってございまして、神奈川県におきましては、8月16日の夕刻に横浜市内で集火・出立式をすること、各市町村で採火をするということで発表されております。

それを受けまして、川崎市といたしましては、県の集火・出立式の前日であります8月15日の夕刻に、各区がそれぞれの特色を生かして採りました火を「かわさきの火」として集めまして、翌日の県の集火・出立式へ持っていきたいと考えております。

資料の説明については以上となります。

【福田市長】

これについても何かご意見ございましたら、お願いいたします。

採火するのは、各市、各自治体どんなことでやるかというのは、ばらばらなんですよね。何かバリエーションがあるんですかね、たしか。バリエーションがあるというか、どういうやり方というのはかなり。

【永田オリンピック・パラリンピック推進室担当係長】

そうです。今まさにアイデア出しを県のほうに各市町村が出しているところでございまして、様々ばらつきがあるだろうとは聞いております。既存のイベントを利用する場合もございまして、学校ですとか地域の方と一緒に火をおこすということもございまして、様々

なことが想定されると聞いております。

【福田市長】

特にご意見ございませんでしょうか。

それでは、議題については、次第の「その他」は特にはないですね。

【井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

はい。

【福田市長】

では、何かほかに、これまでのことでも結構ですし、これからのことでも、一般的なことでも結構ですけれども、何かございましたらご発言をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

【横島委員】

お手元にこういったパンフレットがあると思うんですけども、市長杯ボッチャ大会ということで、3月1日に開催されるんですけども、他都市でも、このボッチャの大会に「市長杯」という冠がついた大会はないと思います。川崎が先駆けて開催できることをぜひアピールしていきたいと思います。

内容につきましては、各チーム3名で、競技の部は、ここに書いてあるとおり障害のある方のチームで、募集が16チーム。これをブロック別にリーグ戦を行いまして、ブロック上位のチームによるトーナメント戦で優勝を決定するという方式でございます。参加チームが多く試合ができるように配慮しているところなんですけれども、同様に、下の段のレクの部も同時開催ということなんです。

市民祭りですとか、区民祭においてもボッチャのブースは大変混雑しております。また、学校や企業でも活動しておりまして、一般的にも浸透していることがうかがえると思います。こうした方々にも参加していただきまして、より一層ボッチャの認知を広げていきたいと思います。第1回ということで、パラムーブメントのレガシーとなるように今後も継続して開催できるように努力したいと思います。以上です。

【福田市長】

ありがとうございます。ボッチャは非常にインクルーシブなスポーツですね、誰でも参加できるという。子どももお年寄りも、障害がある方は、本当にものすごくはまります。市役所で練習をやっているところに僕も参加して練習してきたんですけども、ものすごく楽しいですね。最近、ライオンズクラブとか、ご寄附いただけるというときに「何が

いですか」と言ったら、意外とボッチャのボールをくださいとかっていうので、いろんなところで使ってもらって普及させようかなど。その1つの大きなきっかけになればいいなと思っています。

ほか、何かございますか。よろしいでしょうか。

【大塚委員】

ちょっと質問というか、横島さんに聞いたかったですけれども、ご高齢の方で参加するとかっていうのは、まず今回は、1回目ではないんですか。

【横島委員】

特に年齢制限というのは設けておりませんので、もしそういう団体の方が申し込みされれば、お受けいたします。

【大塚委員】

市内に在住・在勤、またはということで。

【横島委員】

はい。

【大塚委員】

なるほど。小学生以上のチーム。

【横島委員】

以上のチームということで。ですから、ご家族で参加されるのもチームとしてはOKというふうには考えております。

【大塚委員】

たまたま、手前みそで申しわけないですけども、うちのNPOでもボッチャを使ったイベントをやっているんですけど、そのときにボッチャだけをやるのではなくて、実は名前が「座・フィットネス」といって、座するという漢字にフィットネスという。座った状態でやるフィットネスを考案しまして、車椅子ユーザーって横動きができないんですね。だから、足元を一切動かさないでやるプログラムをつくりまして、それは座位でやるパターンと立位でやるパターンというのを、2つの先生が目の前にいて、立位でやりたい方はそれでやる。座位でやりたい方は車椅子のままでもできますし、あとは椅子に座ったままでもできるというのをやっているんですけども、これのいいのって、フィットネス好きの人がその先生を求めて来ていただいているんです。うちのほうでイベントをやると、その先生が非常に有名な先生で、大阪からわざわざ来ていただいたりとか。

この前、新宿でやらせていただいたんですけども、そのときに一番遠い方は長崎からいらっしやったんです。来てみたら、座・フィットネスというワードで来ていただいたんですけども、あとはその先生を目がけて来ていただいたんですけども、前段でボッチャと卓球バレーというものをやらせていただくんです。そうすると、フィットネス目的で来た人がパラスポーツに触れるという、全然違う方向からのアプローチをさせていただいてパラスポーツの認知向上に努めたというふうなことが1つと、逆に障害のある人たちからすると、フィットネスをやっている人たちとの交流ができて、そこでお友達になっちゃって、じゃあ、この後一緒に飲みに行きましょうみたいな流れもつくれたのはすごくよかったので、どちらかというと、今は競技の部とレクの部と分かれていますけれども、この交流も何かつくれるといいんじゃないかなと個人的には思っています。

【中澤委員】

ボッチャについては……。

【福田市長】

どうぞ。

【中澤委員】

練馬区で私、委員をやっているんですけども、ボッチャチームをつくる人がものすごく増えていて、今、実は練馬区内に8カ所ぐらいある体育館を中心にチームができて、来年はリーグ戦をやりたいというぐらいの話なんです。でも、もっと練馬区以外のほかの自治体なんかでも、ボッチャのチームって結構できていますよね。だから、横のつながりで、それこそ全国大会じゃないけど、そんなのをやっていくのもおもしろいんじゃないかなと思って。

【福田市長】

いいですね。

【中澤委員】

何かそういう目標をつくってやっていくとみんなやりたくなるんです。スポーツってみんなそうじゃないですか。甲子園じゃないけれども、やっぱりそういう横のつながりでどんどん盛り上がって全国で広がっていくというのは一番いいかなと思って。もちろんこういう形でこれはすごく楽しみだし、今、私も見ていて、練馬区でもやろうかなと思ったり。来年から、実は新しい事業で頼まれているのがあって、その中にこういうようなやつも、もっともっといろんな人が参加できるような、市民が参加したくなるようなできれば何か、

杯もそうなんですけど、いろんな商品じゃないけれども、そんなものもつけて、みんなでそれを狙っていこうとか、いろんな思いで参加してもらえたら、これは一気に盛り上がるかなと。まさに8月に向けてというところが動くんじゃないかなと、そんなことを思ったので、これはすばらしいなと思います。

【福田市長】

ありがとうございました。実は、先月の9都県市首長会議って、首都圏の首長が集まってやる会議で、本来は9人の首長がチームに分かれてボッチャをするという企画があったんですけど、この前の台風被害でボッチャじゃないだろうということになっちゃって、急遽企画倒れになっちゃったんですけど、大分いろんなところで盛り上がっているの、おっしゃったような、各地域でぼこぼこ出てきているので、地区対抗とかいろいろ出てくるかもしれないですね。そういうのを仕掛けていきたいですね。

【中澤委員】

川崎がやっぱり先頭を切ってもらえそうです。

【福田市長】

ありがとうございます。先ほど報告いたしましたけれども、英国のチームが来ることでボランティアを募集したら、1,600人来た。8割以上がかなり英語堪能な人でしたっけ。えっ？ と思うほどの、それだけ関心があるのかというのはびっくりして。結果、230人しか登録できないのということなんですけれども、あとの1,400人ぐらいをどういろんな形で巻き込めるかということにいろんな知恵を使いたいなと思っているんですけども、まさにこのパラムーブメントの取組みたいなのをよくその方たちに理解してもらおうと、必ず市内在住か在勤なので、それだけでも訴求力というか、波及効果は高いなと思いますし、例えばボッチャ大会もそうですし、いろんなものに参加して、せっかくものすごい意志を持って応募していただいた方なので、何かうまい形につなげられればなと思っています。何かそういうふうなアイデアも、こうやったらつながるんじゃないかというアイデアがありましたら、またメールなんかでも結構ですのでご意見をいただければと思います。

【中澤委員】

今、私のところもいろんな仕事でいろんな団体からも来てるんですけども、今既にオリンピック・パラリンピック後も日本の国をもっとよくしようという意味で、いろんな企業とか、さっきお話にあった障害者差別解消法が実は今大分広がってきて、障害者自身が

訴えない限り法律は機能していないんですけれども、お客さんからの声がすごく増えて、どうやって対応したらいいか、さっきの研修じゃないけど。そういうことをぜひしっかりみんなで共有したいというのはあっちこちから出ていて。オリンピック・パラリンピックというムーブメントというのは、このムーブメントを生かしたいろんな取組を、今から骨組みとか枠組みをしっかりとつくって、もう始めたほうがいいのか。せっかく今おっしゃった1,600人、この人たちを生かしていったらいいのか。

私、実は前にいたのが日本赤十字社の赤十字語学奉仕団という、語学を使って障害者のためのボランティアをやるチームにずっと入っていたんです。それっていうのは、実は昭和39年の東京オリンピックのときの通訳をした人たちが集まって会をつくって、その中で特に障害のある人の語学を使った支援をやる活動をそれからずっとやっているの。いろんな形のサポートができるというところにみんな派遣されるようになって。

前にこの中でも出てきましたけれども、医療機関に通訳のボランティアの人だとか、そんなものを今まさにムーブメントの中で、市民の生活をよりよくするためのいろんな活動、そのベースにしっかりかかわってもらえる、語学を使った形で手伝ってもら、そんな人に働いてもらえるような場を今からでもつくったらどうか。その1,600人を逃さないで生かせるようにというのが一番大事なのかなと思います。

【福田市長】

そうですね。ありがとうございます。

ちょっと別の話になりますけれども、先ほど報告させていただいたフロンターレの試合、大分トリニータとのセンサリールームのところなんです。あれは実に多くの企業が協力をしてくださっていて、全日空とかJTBとか、ああいう企業の方が非常にサポートしてくださって、飛行機で飛んできて、そのパイロットやCAさんとかもみんなと一緒に試合を見に来て、本当によかったというふうな形で。企業も今すごく意識が高まっているときなので、この機を逃さずいろんなところに、中澤さんがおっしゃっていただいたように仲間をつくっていくということが大事だな。仕組みづくりという。

【中澤委員】

具体的な何かプログラムというか、そんな難しく考えなくていいと思うんですけれども、ちゃんと生かせるような、そんなポイントを幾つか整理するだけでも。実験でいいので。今せっかくそうやって手を挙げてくれるのもったいないじゃないですか。

【福田市長】

そうですね。

【中澤委員】

そう思います。せっかく英国チームのバックアップをするわけだから、これはすごい機会なのかなと。

【福田市長】

そうですね。ありがとうございます。

【菊地委員】

先ほどの市長のお話で、ボランティアさんの方々が今後いろいろなことで地域に貢献していただくということも含めて、選手の皆さんがオリ・パラの前後に地域に来ていただいて、いろんなことを学校でやったり、スポーツセンターでやっていた中で、ボランティアに参加していただいた方、あるいは漏れた方々が地域で自分の、7区なら7区の地域でそういった方が来ていただいたときにサポートをしていただくような仕組みができてくると、町会なんかで顔の見える方々が、この人たちはこんなことができるんだとか、英語がしゃべれるんだとか、そういうことにつながっていくと非常に素敵だなとっていて、その方々のメンバーの、どの地域に住んでいらして、こんなことができるんだとわかると、そんなチームをつくれるといいなと思っています。

【福田市長】

そうですね。オリ・パラの後、どういうふうに残ったかということが大事なので、そこは最初からある程度設計を事前に組み込んでいくということが大事ですね。

ほか、何かよろしいですか。

それでは、特にならなければ、司会は事務局に戻します。

【井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】

どうもありがとうございました。以上をもちまして、本日の議事は終了いたしました。

最後に、事務局から事務連絡をお伝えいたします。今回の議事内容ですが、市のホームページに掲載いたします。追って事務局から出席委員の皆様へ、発言内容の確認のメールを送付させていただきますので、ご協力をお願いいたします。

なお、次回につきましては、既に皆様にお伝えしておりますけれども、3月18日の水曜日14時から、同じ場所、第3庁舎の18階の大会議室で開催いたしますので、よろしくをお願いいたします。以上でございます。

本日は、大変お忙しいところ、ありがとうございました。

以上